

「アトピー性皮膚炎 (AD) の原因はアレルギーですか？」と診察室で聞かれたらどう答えるでしょうか。私は AD の原因はアレルギーではありません、と明快に答えることにしています。すると多くの患者さんは意外そうな顔をし、どういうことか聞きたがりますが、「その質問に正確に答えるためにはアレルギーとは何かという医学部の講義から始めなくてはならないので勘弁して下さい」と逃げることにしています。不誠実のように思われるかもしれませんが、アレルギーとは何かを知らない人にとっては、冒頭の質問自体、意味を成さないものですので、答える必要を感じません。

アレルギーの定義は学者によって必ずしも一定していないかもしれませんが、「生体にとって不利益な免疫学的過敏反応」という点には異論はないでしょう。そしてこの反応が始まるためには、外来性にしても内因性にしても必ず抗原が必要です。抗原のないアレルギーというものは存在しません。

AD の原因がアレルギーであるとすれば抗原は食物、ダニ、ハウスダスト、真菌などと思いますが、もしそうであるなら、これらの抗原を除去すれば AD は改善するはずですが。過去、そのように考えた多くの医師が抗原除去療法に精力的に取り組んできましたが、結果は満足のいくものではなく、むしろ多くの患者さんを標準治療から遠ざけて苦しめる結果になったように思います。

血液検査をすれば確かにこれらの抗原に対する特異的 IgE は上昇していますし、総 IgE 値、末梢血好酸球数、TARC の高値は持続的なアレルギー反応の存在を示しています。しかしこれらは、バリア機能低下を中心とした皮膚の被刺激性の亢進に、環境抗原による経皮的な感作が加わって生じた持続的な皮膚のアレルギー性炎症の結果であり、皮膚炎の原因ではなく結果を見ているに過ぎないのだと思います。そもそもダニ、ハウスダストなどの環境抗原ならともかく、食物のアレルギーで AD のような慢性の皮膚炎が生じる道理がありません。また環境抗原に対するアレルギーは悪化因子の一つではありますが、少なくとも原因とはいえません。

以上は古典的な免疫学と長年の臨床経験に基づく素朴な私見ですが、最新の基礎的研究はこの私の考えを支持してくれるのでしょうか。そんななか手にしたのが、小誌 5 月臨時増刊号「変わりつつあるアトピー性皮膚炎の常識」です。前半の病因・病態のセクションでは、多くの専門家による詳細な最新レビューがなされています。かなり専門的で難しい部分もあるのですが、私なりに理解したところでは前述の私の考えはさほどの外れではないようです。宣伝になってしまっただけは恐縮ですが、この増刊号は AD の診療に取り組む多くの皮膚科医にとって非常に有益な情報を多く含んでいますので、ぜひお時間のあるときにお目通しいただければと思います。

(相馬良直)

— 顧 問 —

大原 國章 大塚 藤男

— 編集委員 —

土田 哲也 五十嵐 敦之 相馬 良直 林 伸和 佐伯 秀久

「皮膚科の臨床」第 61 巻 第 8 号 7 月号

2019 年 7 月 1 日発行 (毎月 1 回 1 日発行)

定 価 (本体 2,700 円 + 税)

年間購読料金 定価 (本体 42,100 円 + 税)

〔年間 13 冊 (臨時増刊号、増大号を含む) の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

発 行 所 金原出版株式会社

発 行 者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

TEL 03(3811) 7165 [編集室直通]

TEL 03(3811) 7184 [営業部直通]

FAX 03(3813) 0288

ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp>

振替口座 00130-1-191269

印 刷 所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 TEL 06(6941)5600

- 本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権 (送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

- JCOPY <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつと事前に、出版者著作権管理機構 (TEL: 03-5244-5088, FAX: 03-5244-5089, E-mail: info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。